

恵山の火山活動解説資料（平成 20 年 5 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 火口や噴気の状況（図 2～4）

2 日に北海道開発局の協力により上空からの観測を、14 日に現地調査を実施しました。

X 火口及び Y 火口では噴気や火口の状況に特段の変化はありませんでした。また、赤外熱映像装置¹⁾による観測では、X 火口及び Y 火口の地熱域の状況に変化は認められませんでした。

¹⁾ 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 地震活動（図 1、5、表 1）

火山性地震は一日あたり 0～7 回で、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

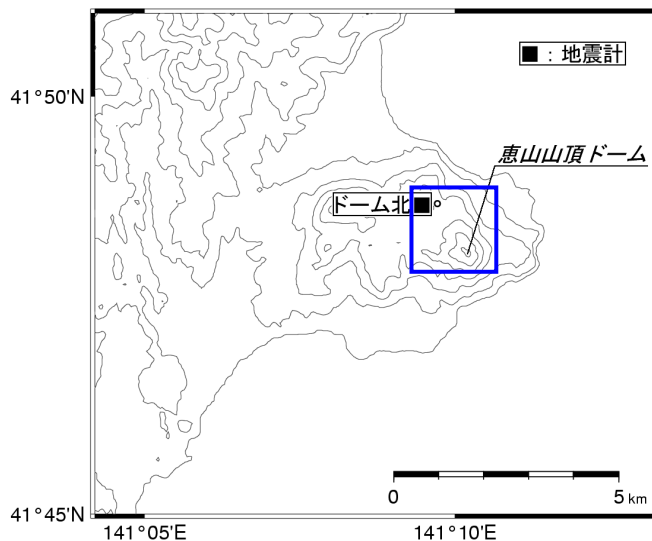


図 1 恵山 地震計配置図

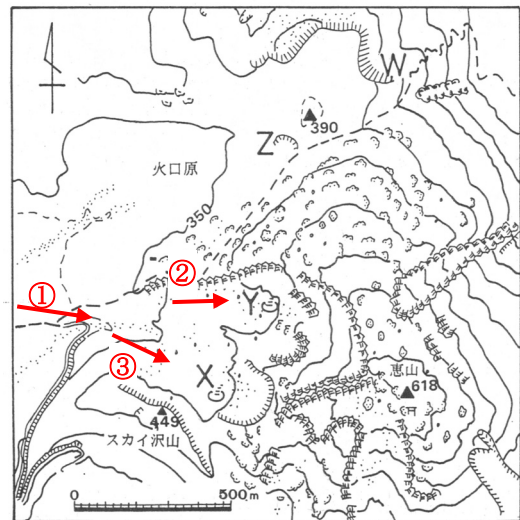


図 2 恵山 火口周辺図
(図 1 の□を拡大)

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 6 月分）は平成 20 年 7 月 9 日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

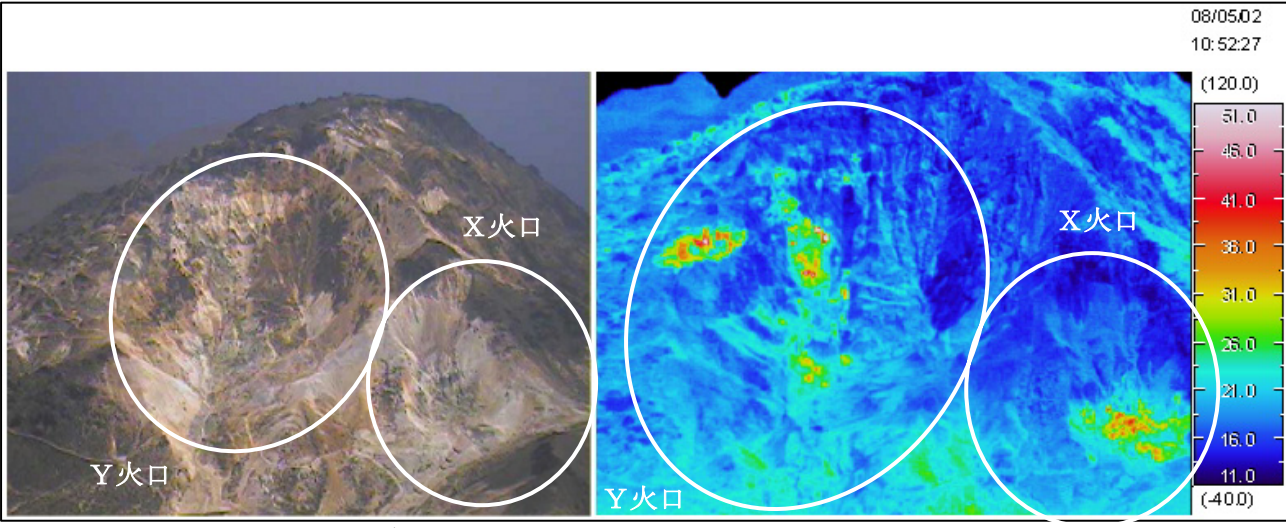


図3 恵山 赤外熱映像装置¹⁾によるX、Y火口周辺の地表面温度分布
(2008年5月2日 図2の①方向上空より撮影)



図4 恵山 現地調査による火口の状況（2008年5月14日
左：Y火口 図2の②方向より撮影、 右：X火口 図2の③方向より撮影）

- ・ 溶岩ドーム西側に位置するY火口では火口底や火口壁上部の数箇所から最大 50m程度の噴気、X火口では火口底付近から 10m以下の噴気が認められました。赤外熱映像装置¹⁾で観測した地熱域の分布は、前回(2007年11月)と比較して特段の変化はありませんでした。

表1 恵山 地震・微動の月回数（図2のドーム北）

2007～2008年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
地震回数	28	17	68	78	17	10	107	24	7	14	6	31
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

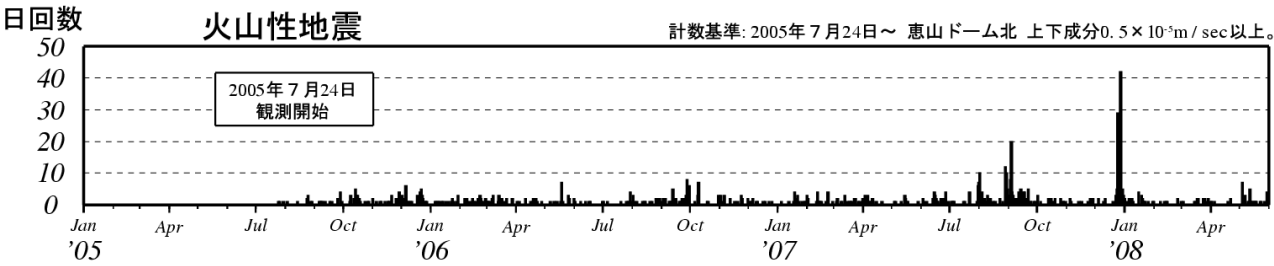


図5 恵山 日別地震回数（2005年7月～2008年5月）